様式第2号（第8条関係）

会議の概要報告	
1. 会議の名称	第1回甲賀市学校再編審議会
2. 開催日時	令和6年（2024年）7月29日（月） 14:00～16:00
3. 開催場所	甲賀市役所 4階 教育委員会室
4. 議題	・学校再編の現状について ・今後のスケジュールについて
5. 公開または非公開の別	公開
6. 出席者	中村委員、井口委員、大林委員（副会長）、福永委員、西川信廣委員（会長）、藤岡委員、八木委員
7. 傍聴者数	4人
8. 会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・甲賀市学校再編審議会 審議スケジュール（案）【資料1】 ・甲賀市学校再編審議会 委員名簿 ・甲賀市附属機関設置条例 ・甲賀市学校再編審議会規則 ・甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針 ・子どもたちにより良い保育・教育環境の提供をめざして～甲賀市幼保・小中学校再編計画（基本計画）～ ・子どもたちにより良い保育・教育環境の提供をめざして～甲賀市幼保・小中学校再編計画（概要版）～ ・再編検討協議会 報告書概要一覧（R3.3.31現在） ・市立小中学校におけるより良い教育環境について（甲賀市小中学校教育のあり方審議会） 令和3年度提言書、令和4年度提言書
9. 議事の結果概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 委員自己紹介 4. 会長・副会長の選出について 会長：西川信廣氏、副会長：大林源弥氏 5. 諮問 6. 協議事項 (1) 会議の公開について 事務局：甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針に基づき、会議は原則公開とする。また会議の傍聴および議事録の公開を行う

が、公開する議事録は概要とする。発言者の名前は入れない。

なお、議事録は各委員確認の上、ホームページで公開する。

委員：以前別の会議において、議事録に1カ所だけ名前が掲載されたまま公開された。配慮いただきたい。また、公開は議事録の全てか概要かどちらか。

事務局：発言の概要として議事録を作成し、委員確認の上、公開させていただく。

会長：では今後は、甲賀市附属機関の会議の公開等に関する指針に沿って本会議は公開とさせていただく。

【傍聴者入室】

(2) 学校再編の現状について

《事務局説明》

会長：各地域の再編検討協議会のメンバーはどういう方か。また教員は入っていたのか。

事務局：地域によって人数の配分は異なるが、区長や自治会長などの地域代表、PTA役員などで構成されていた。学校教員は委員には入っていない。

委員：再編検討協議会のメンバー構成はわからないが、当時保護者の数が少なかったということを知っている。

会長：2つの学校が廃校となったことを決めたのはどの組織になるか。また鮎河と山内の検討協議会では、学校を閉校してもよいという意見が出たのか。

事務局：再編検討協議会からの報告概要の一覧を資料につけている。鮎河、山内の検討協議会では「閉校、閉園を了承する。」という報告をいただいた。これにより、市が閉校に向けて手続きを進めることとなった。

委員：感情論で話をすると進まない。鮎河と山内は地域で少子化に対する危機感を持たれていた。閉校に了承とあるが、決して簡単に決められたわけではない。地域の方だけの考えなら反対だったかもしれないが、当時の保護者の考え方からこういう回答となったと思う。

会長：ただ単に小学校を廃校にするということではなく、新しい教育を甲賀市は発信していくことまでを視野に入れることが学校再編となる。子どもの数が減ったから学校の数を合わせるという問題ではなく、新しい学校を作っていくという思いを持った審議会にしたいと思う。

(3) 今後のスケジュールについて

(4) 意見交換

《事務局説明》

委員：学校再編という非常に難しい問題を考えるときに、これだけの回数で議論ができるのか。

事務局：学校再編についての大きな方向性は変わっておらず、学校の配置計画については、この部分を変更していくという考えは持っていない。しかし、計画を進めるにあたって、考慮しなければならない点や、市として実行すべき施策などについて審議会の中でご意見を伺いたい。

委員：子供を学校に預けている立場としては、学校はバスで通学できる場所にあってもよいと思っているが、当時は地元住民の意見が強かったと聞いている。再編を10年かけてできなかった。時間がかかりすぎている。スピード感は大事と思う。

委員：10年計画の7年目において、各地域の検討協議会が学校はこのままで良いという結論が多数を占めた。ある意味行き詰まり感があったと思う。それを打開するための小中学校教育のあり方審議会だったと思う。そんな中で統合を進めようではなく、教育のあり方を考えようという視点に話が変わってきたので、勢いついてきたのかなという感覚を持っている。検討協議会は地域の年配の方やお役の方が多く、若い保護者の方の意見がどれだけ吸い上げられていたかはわからない。ある意味あり方審議会は学校再編のビジョンを作ったのではないかと思っている。

会長：当初の計画はいろんな理由があって止まっている。2校の廃校に留まった。進めましょうでは進まないの、審議会では何か新しい教育ビジョンを出しましょう。ただ単に数合わせではないことを言いたい。

多羅尾小学校を見せてもらったが、校舎も素晴らしい。ここで育ったなら学校を残してほしいと思う。統合しても学校は残し、学期に1, 2回は学校に戻り、地域学習や総合学習を行うことで、地域の方も集まることができる。廃校にしないことが今の学校統廃合のビジョン。

委員：統合することで、学校の名前の問題も出てくる。そのまま地域の名前でいけるところもあれば、そうでないところもある。

会長：配置計画を推進するための答申なのか、そこに新しい教育を提案していくことを書き込んで良いのか。

	<p>事務局：諮問について3点あげている。1つ目は再編計画について、2つ目は再編計画の進め方について、これは、現行計画の進め方について不足な点がある中で、地域や保護者に対してどのように話をすればよいか、意見をいただきたい。また3つ目に再編計画の実現に向けて考慮すべき事項について、今後の教育のあり方についても地域や保護者に対して提案することは必要と認識しているが、その他具体的な手法についても提案する必要があると感じており、審議会で議論いただき、答申という形で提言いただきたい。</p> <p>会長：配置計画は小学校を12校にする計画になっているが、具体的な手法は記載されているのか。</p> <p>事務局：現計画は基本計画で、方向性を示した計画であるため、具体案を審議会に提案いただきたい。今までは再編検討協議会というのを市内一律に立ち上げる進め方をしたが、その結果統合は進んでいない現状がある。では今後どのようなアクションを起こすべきかご意見をいただきたい。</p> <p>会長：このプランが実現できるような答申を書いていきましょう。まずはこの計画が進まなかった理由を明確にしていきましょう。理由がわからなければ、改善策もわからない。学校は地域の核であるので、建物は絶対残さなければだめ。そういうことを提案していきましょう。</p> <p>委員：小学校は、通学に関しての安全が確保できれば再編は構わないというのが率直な意見。子供が1人なら6年間しか学校と関われないので、その後は関心がなくなってしまふ。期限が限られる。また、小学校は地域の核だと思う。地域と共に生活、育ってきた中で、学校の大切さ、なくなることの寂しさがあるので、丁寧に説明をしていかないといけない。地域にあるお祭りも小学校区のメンバーと一緒にしている。地域の学校というのは無くせないが、コミュニティスクールをうまく利用して学校という施設を利用できないかと思っているが、いろんな障害があり厳しい。</p> <p>委員：これからの甲賀市の教育に関われることを嬉しく思う。目の前にいる子供たちだけでなく、5年、10年先の甲賀市の教育や子供だけでなく、地域もともに育っていくような、今ある枠にはめ込むのではないということ、そんなことを教えていただいた。今、土山小学校では鮎河、山内小学校の校歌を歌い継いだり、学校行事でその地域に行くこともしながら、地域の思いを語り継ぐような働きかけがある。やはり学校運営協議会の役割</p>
--	---

	<p>は大きい。土山の保護者は中学校が1学年1学級になることを心配されている。そんな中で、魅力的な学校に通わせたいという思いを、未来を見据えて考えていくことも今必要ではないかと思う。</p> <p>委員：これからの甲賀を考えた時、学校のない地域に若い人は移住してこないと思う。</p> <p>委員：この審議会のメンバーについて、再編の対象となる学校区から選出されているのか。</p> <p>事務局：そういうわけではない。</p> <p>会長：これからこの計画を踏まえながら、数合わせではない再編を考えていくということの意見は一致したと思っている。</p> <p>委員：同級生のお母さんの子供が入学するときに1人だった。子供は別の学校に入学したいと言ったが、兄弟がいたので我慢してもらったようだった。さすがに一人の入学は誰でも嫌だと思われ、友達がいないということは楽しくないし、可哀そうと思う。</p> <p>教育長：現行計画の時の教育目標は「社会に挑む夢と力を蓄えた中三生」であった。いわば、6年間、9年間を見据えた教育を柱に置いて、その上でこの計画を出した経緯がある。会長が言われたように、9年間を見越した学校を最終的に作るという構想で、現行計画もそういう方向性であった。また、先ほどから言われているように、数合わせではなく、魅力ある、行きたいと言われる学校を作っていきたいと思っている。そういう形で進むように皆さんからのご支援をいただきたいと思う。</p> <p>会長：皆さん同じ考えと思うので、2回目からも意識しながら話を進めていきたい。</p> <p>(5) 次回審議会について 8月27日(火) 14時から 3回目以降の審議会は次回の審議会で調整</p>
10. その他	